

(5) 生活圏における広域調査

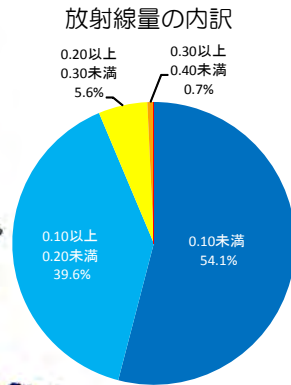
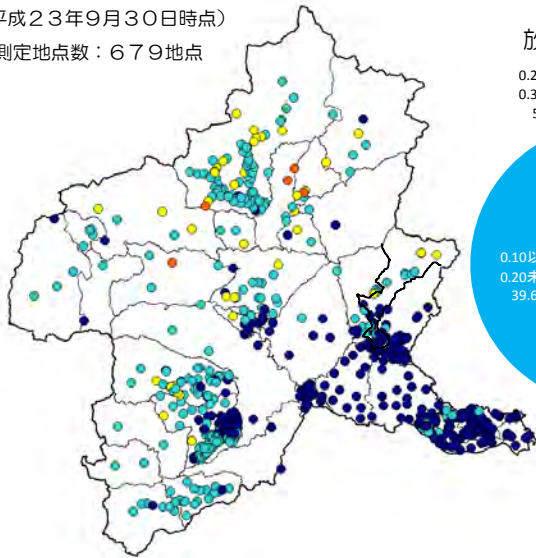
県及び市町村では、携行型放射線測定器（サーベイメータ）等を用いて、生活圏を中心として、公園、学校など、地域を代表する地点で空間放射線量率を定期的に測定しています。

生活圏においては線量が高い所を中心に市町村等による除染が進められており、着実な線量の低下が認められます。

生活圏における広域調査結果

第 1 回

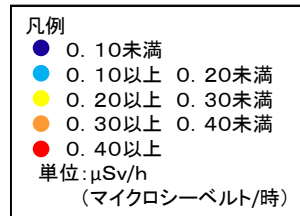
(平成23年9月30日時点)
測定地点数：679地点



毎時0.2マイクロシーベルト以上0.3マイクロシーベルト未満の地点は全体の5.6%（38地点）、毎時0.3マイクロシーベルト以上0.4マイクロシーベルト未満の地点は0.7%（5地点）でした。

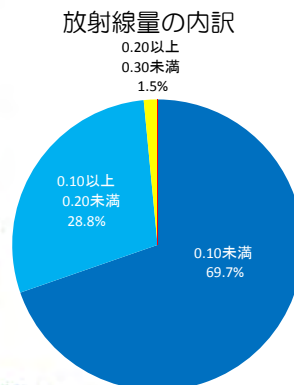
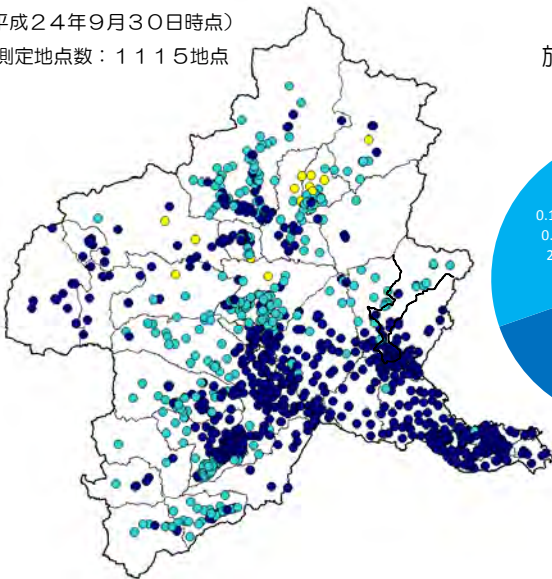
県中央及び東毛地域の平野部では、全ての地点で毎時0.2マイクロシーベルト未満でした。

なお、毎時0.4マイクロシーベルト以上の地点は確認されていません。



第 2 回

(平成24年9月30日時点)
測定地点数：1115地点



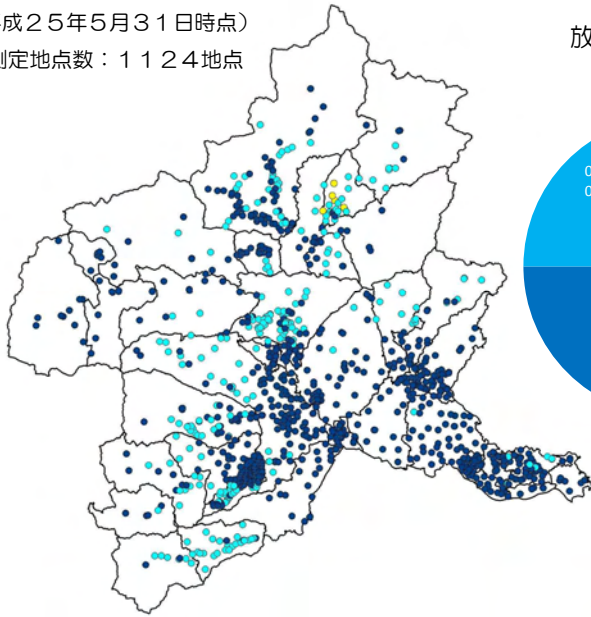
1年前に5地点あった毎時0.3マイクロシーベルト以上0.4マイクロシーベルト未満の地点はなくなり、毎時0.2マイクロシーベルト以上0.3マイクロシーベルト未満の地点は、全体の1.5%（17地点）に減少しています。

1年前と比べ、生活圏における空間放射線量率は着実に減少しています。

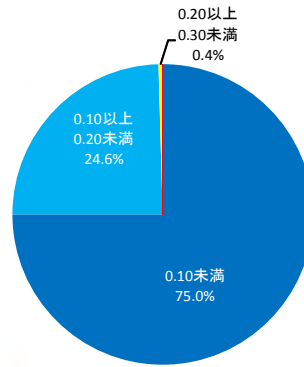
第3回

(平成25年5月31日時点)

測定地点数：1124地点



放射線量の内訳



毎時0.2マイクロシーベルト以上0.3マイクロシーベルト未満の地点は、全体の0.4%（5地点）に減少し、生活圏の空間放射線量率は、さらに低減してきています。

(6) 農地土壌の調査

農業技術センターでは、県内の農地土壌における放射性セシウム濃度の平成23年度以降の推移を把握するため、継続的な農地土壌のモニタリング定点調査を実施しています。

平成24年度は、県内88地点で調査を実施したところ、各地点の濃度は15～最大1,742 ベクレル毎キログラム（注7）（乾土）の範囲で、平均すると208ベクレル毎キログラム（乾土）でした。

各地点の放射性セシウム濃度は、約1年半の間に平均28%減少しており、放射性セシウムの崩壊による物理的減衰（約20%）以上に減少していました。

（注7）

ベクレル毎キログラム(Bq/kg)=1キログラムあたりの放射性物質が放射線を出す能力のことを言います。放射能の強さを表します。

農地土壌における放射性セシウム濃度の推移

